

## 大雪の山に迫る招かざる動物

春になって、大雪山麓の森では動物たちの活動が活発になってきています。運が良ければ直接その姿を見つかることができますが、警戒心の強い野生動物を見ることはなかなか困難です。でもこの時期、残雪や泥の上に残っている足跡なら容易に見ることができます。

キツネやウサギ、シカ、リスなどが代表的なものです。ところが、ここ数年見慣れない足跡を見るようになってきました。それは川や沼などの水辺から水辺へ渡る赤ん坊の手のような形の足跡です。

その正体はアライグマ。北米を原産地としてカナダ南部から北・中央アメリカに広く分布しています。日本、ヨーロッパ、ロシアなどでは、ペットが野生化して定着し始めています。

一夫多妻で、オスは2歳、メスは1歳から繁殖可能になり、春先に3〜6頭の子供を出産します。繁殖に失敗した場合は再度交尾して出産する非常に高い繁殖力を持っています。

木登りや泳ぎが上手で、冬の間は樹洞を利用して巣づくりし、牛舎や人家の納屋で餌をあさるなど、人



Nature Column (ネーチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

間の生活環境に適応する能力も高いのです。北米では、ピューマなど大型肉食獣の天敵がいるのですが、日本にはその天敵がないので分布を広げているのです。

5本の長い指を器用に使うことができるので、スイカやメロンなどは皮の一部を切り取り、そこからきれいに中身を食べます。トウモロコシは、毛のある上側から表皮をはいできれいに食べる特徴があり、他の動物の食痕跡と区別することができます。また皮膚病の疥癬(かいせん)、狂犬病、アライグマ回虫などの病原体を持っていて、在来野生動物への媒介が懸念されています。

人間の生活に適応して農作物に被害を与え、病原体や生活圏の重複など、在来動物たちにとっての脅威にもなっているのです。

アライグマのように外来生物法の特定外来種に指定されている動物に対して、私たちにできることは早期に発見して地域の環境の変化を観察することです。この春はじっくり自然に目を向けてはいかがでしょうか？

ガイドオフィス風 代表 鳥羽晃一



## プロフィール

2年間ご愛読いただいた「本で知るふるさとの山」に続いて、5月号から新コラム「世界を知ろう!」がスタートします。

昨年からの町の国際交流員として地域活性化で活躍しているクリスタ・ボグダノヴァさん(ラトビア)、シッシャノック・ホントイッパラットさん(タイ)、3年目のユン・ソヒさん(韓国)に加えて、今年後半からは新たに中国、ウズベキスタンから来町予定の国際交流員2人も順次登場予定。どんな話題が飛び出すか。国際色豊かなお話をお楽しみに。

### 筆者紹介

▼クリスタ・ボグダノヴァさん(ニックネームはクリスタさん。ラトビア出身、28歳。昨年8月から町国際交流員。)

「ラトビアの生活習慣、お祭り、料理や日本とラトビアの交流の様子、ラトビアで有名な日本文化を紹介します」。

ラトビア大学日本語専攻修士卒業。学生時代に山形大学に留学。趣味は旅行、料理、スノーボード。

▼シッシャノック・ホントイッパラット



さん(ニックネームはノックさん。タイ出身、26歳。昨年8月から町国際交流員。)

「タイ国のこと、私が日本に来てよく聞かれたこと、自分の経験から感じる日本とタイの生活習慣、文化の違いなどを紹介します」。

日本の漫画、アニメーション、料理をきっかけに、高校から日本語の勉強を始めた。タイ・アサンブション大学卒業(ビジネス日本語専攻)。日本語通訳、日本語教師の経験。趣味は旅行、写真、キー作りなど。

▼尹昭熙(ユン・ソヒ)さん(ニックネームはユンさん。韓国出身、25歳。2013年4月から町国際交流員。)

「当たり前と思っていた母国・韓国のこと、日本で気づいた韓国文化や生活習慣などをお話します」。

「私にとつてとてもおもしろかった質問も紹介します」。

韓国・大田大学卒業(日本語日本文学専攻)。日本語教員資格(韓国の高校レベル)。高校時代に読んだ日本の小説で日本に興味を持ち、北海学園大学(札幌)で1年間交換留学生。趣味は読書、弓道、ドライブなど。